

鶴飼信成

つるかい

憲法學者、法學博士。明治二十九年二月九日東京生

れ、昭和六十一年五月十日歿（一九六一―八七）。昭和五年東京帝國大學法

學部卒。京城帝大助教を経て、二十一年東大社會科學研究所教授。

二十九年浪官後國際基督教大學學長、成蹊大學・専修大學各教授を歴任。メソジスト系キリスト者。

著譯書 『民主主義の理論』（合著・堀眞琴編、昭和二十四年二月一日

愛育社）、カサリン・ドリンカー・ボーエン著 『判事ホームズ物語―

人とその背景』全二冊（共譯、上巻・昭和二十五年五月十五日、下巻

・六月十五日法政大學出版局）、ハンス・ケルゼン著 『法と國家』（譯

昭和二十七年一月十日東京大學出版會）、『基本的人權の研究』（合

著・鈴木安藏、昭和二十九年六月二十五日勁草書房 『政治學研究叢

書』）、『日本憲法の分析―改正の擁護』（合著・中野日本新聞編、

昭和二十九年六月二十日黎明書房）、『總選挙の實態』（共編、昭和

三十年一月十日岩波書店）、『学生と読書』（合著・瀬沼茂樹編、新

装版・昭和三十年二月十日河出書房 『河出新書』）、『憲法をめぐる

力とこのむす力』（昭和三十年九月二十日河出書房 『河出新書』）、『現

代アメリカの思想』（合著・都留重人編、昭和二十一年二月二十九日

河出書房 『河出新書』）、『憲法』（昭和二十一年四月二十日岩波書

店 『岩波全書』）、ゲルホーン著 『言論の自由と権力の抑圧』（共訳、

昭和二十四年八月二十日岩波書店 『岩波現代叢書』）、『憲法と裁

判官―自由の証人たち』（昭和二十五年十一月二十日岩波書店 『岩波

新書』）、『憲法の使命と運命』（昭和二十六年十一月一日有信社

『文化新書』）、ロツタ著 『市民政府論』（訳、昭和四十三年十一月

十六日岩波書店「岩波文庫」、憲法における象徴と代表（昭和
五十二年五月二十日岩波書店）、M・D・ハウ編「ホームズ・ラスキ
往復書簡集」（訳、昭和五十六年十一月十八日岩波書店「岩波現代選
書NS版」）、法と裁判をめぐらる精神（昭和五十八年十一月十
一日岩波書店）、思ひ出の本（合著、昭和五十九年十月十五日出
版ニューズ社）等。